

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401028		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム 慈幸苑		
所在地	熊本県玉名市横島町横島2493番地1		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の残された能力を十分に発揮して頂き、心地よい居場所の提供との理念に基づき、家庭的な環境の下、入居者様・ご家族・職員が共に支え合い、助け合い、人格・意志を尊重した支援を行っている。

未だ衰えをみないコロナ禍の中、外出・面会等、制限されている状況ではあるが、苑内での楽しみ事も充実させ、各々出来る事を担って頂き、一つの作品が完成する喜びや達成感を味わって頂けるような取り組みを行っている。

2ヶ月毎に発行している「苑だより」も、確実にご家族様の手元にも届くようにしており、面会が制限されている状況ではあるが、日常の生活の様子・行事・活動をお伝えしご家族様の安心に繋がっている。

法人内の看護師により医療連携体制も確立しており、入居者様の急変時にも迅速な対応が出来ている。

法人の協力を得ながら、入居者様の “今” “この時” を大切にした支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の“今”“この時”を大切にした支援は、コロナ禍にあってもホームの姿勢として大切にされており、訪問当日も自分のペースで、独歩やシルバーカートを押しながらトイレに行かれたり、食材切りや味付け、盛り付けをはじめ昼食の準備に精を出される入居者の姿が見られた。入居者はホーム内の移動中も掲示物に足を止め見入ったり、ホットプレートでの焼き魚作りも「熱かよ～！」「もうよかごたる！」など、入居者同士や職員との会話、笑い声が絶えず、今、この時が有意義なものになっている光景を見る事が出来た。開設当初は県外への日帰り旅行など家族参加でのイベントが毎年実施されていたが、入居者の身体状況や感染症などへの配慮から以前のような取組が出来ない面もあるが、地域の方の協力も得ながら畑を耕し、季節の野菜を育て、食事の一品に活用するなど変わらぬ取組が行われている。今後も馴染みの海や山を見ながら、穏やかな日常と家族の安心に繋がる支援が継続されていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	1			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お一人お一人の残された能力を発揮して頂くととの理念に基づいた支援を行い、また、毎日目にする日誌へ理念貼付し、理念を共有しご利用者支援に繋げている。	ホームの指針となる理念は開設時からのものであり、日誌に添付することで職員の意識付けとし、重要事項の表紙に明記して家族や関係者にホームの姿勢を示している。入居者の能力を活かしながら個々に役割を担ってもらうことで、生きがいやほりのある生活を後押しし、安心して暮らせる運営を継続している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商店への買い物や母体施設のデイサービスご利用者様との交流を支援している。	ホーム周辺には民家が無いものの、法人施設を地域の一つとしてデイサービスとの交流や特養に訪れる地域からの理容支援に出かけている。職員が清掃活動に参加しており、感染症の状況を見ながら近隣の商店には入居者とともに出かけている。地元の物語を紙芝居で見ってもらうことで聞き覚えのある地名や、見た事のある風景に入居者が喜ばれるなど、職員のアイディアで地域との関係性を重要視している。	入居者が実習生やボランティアの来所を楽しみにされており、コロナ終息後の再開に向け、コンタクトを取るなどの働きかけが期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の知人から相談を受ける職員もあり、対応や支援方法をお教えし、認知症理解を深めて頂くよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響で、書面決議となることが多かったが、開催時は苑だよりを活用しご利用者の生活の様子をお伝えすることができた。委員さん方からも活発な意見を頂戴し、サービス向上に活かすことができています。	感染症の状況により関係者への資料送付にて書面審議としていたが、昨年11月には直接開催が出来ている。苑だよりで普段の入居者の様子を伝え、地域との関わりや研修、アクシデントなどを報告している。参加した包括職員からは地域福祉の現状やイベント開催などの情報が紹介されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加、行政の集団指導の折、相談・助言を頂いている。	運営推進会議の直接開催時には、行政や包括の担当者にホームの現状を伝えながら、地域や福祉情報の収集に努めている。実地指導では入居者の居室を見てもらいながら、生活の様子を伝えており、指摘事項や改善点などは無かったとのことである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の「鍵なし・眠剤なし・抑制なし」の方針通りに支援ができています。	法人の身体拘束及び虐待に関する方針がホームにしっかりと浸透しており、新たな入職者にも如何なる拘束も行わない事で理解が得られている。会議ではスピーチロックなどの言葉使いや、ニュースで取り上げられた事例をもとに話し合い、ホームに置きかえながら他人事とせず自身を振り返る機会としている。センサーマットは使っておらず、排泄用品を基本、布パンツとする法人の方針に、ホームでもできる限り布パンツで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会への参加、また、ニュース・新聞で目にする虐待について職員間で話し合うことも多く、情報の共有もあり、虐待防止の体制ができています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会・勉強会への参加を行い、必要時に活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書と目を通して頂き、各々の文書の説明を行い、ご理解・納得を頂いている。また、ご不明な点はいつでも問い合わせ頂くよう伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折、ご利用者の状況・生活の様子を伝え、ご意見を伺うようにしている。運営推進会議時の資料により外部へも表せる仕組みがある。	コロナ禍にあり家族会は行われていないが、職員は面会時や電話で意見や要望を引き出すようにしている。入居者には普段の会話に本人が応えやすい問いかけをしながら、食べたいものや外出への要望を聞き取ってる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の業務の中での気付きや意見・提案をもらい、運営に反映させている。	職員は普段から意見や要望を出し合っており、入居者の衣類の着脱の難しさから着やすい物を提案したり、室内活動の充実を図るなど、入居者支援に反映されている。3か月及び半年を目途に自己点検のチェック表にて評価と振り返りの機会を持っており、ケア向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休、有給休暇の取得を推進し、勤務交代にも柔軟に対応し、働きやすい職場となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・研修会への参加を促し、併せて介護技術の自己点検を行い振り返り、さらに質の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中で、交流等でできていない状況である。終息の折には、支部連絡協議会を通じ、他事業所との交流や勉強会への参加も行っていく。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所可の運びとなれば事前訪問を行い、現状を把握し本人様の話を伺い、寄り添いながら安心して暮らして頂ける関係を築けるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話を十分に聞き取り、困り事や要望を伺うようにしている。入所後もご本人の様子等お伝えしながらご相談頂ける関係が構築できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の思いを十分に受け止めている。対応困難時は他のサービス事業所の利用等のアドバイス行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員は一つの大家族と捉え、困ったときは手を差し伸べお互いに支え合いながら一日一日大切に過ごす関係性である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も含め家族と捉えており、面会の折にはゆっくりと時間を持ち本人様の様子を伝え、ご家族の相談・不安事もお聞きするよう努めている。本人様の話題を提供し共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会の制限もある中ではあるが、検温・手指消毒・マスク着用等行い、距離を取ってではあるが、友人・知人の方との面会や、母体施設のデイサービスご利用者との交流もあり、良好な関係の継続に努めている。	入居者が菜園で採れた野菜を見て当日の料理を提案されるなど、野菜作りを通して馴染みの手作り食がテーブルにのぼっている。家族との面会は現在玄関で行われており、職員はこれまでの関係性が薄れないように夏には入居者から家族宛てに暑中見舞いのハガキを出す等できることに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で名前を呼び合い、姿がないと気遣われたり、日々の中で他者のことを気遣う言葉が多く聞かれている。トラブル発生とならぬよう見守り、良好な関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた時も訪問し、会話の時間を持つように努めている。また、退所後の来苑ある時には利用者様を中心とし、家族との会話の時間を持ちサポートできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が希望する生活、好まれる暮らしのスタイルを会話や行動から気持ちを把握し、スタッフ間で情報共有し、気持ちに添える支援を行っている。	職員は入居者一人ひとりに寄り添い、生活ぶりや身体状況から思いが把握できるよう工夫している。耳の不自由な方には耳元でゆっくり話しかけ、単語のみで話される方にはそれらを結びつけながら推測している。会話をしている最中に柿やキンカンの話となり、そのままキンカンちぎりに行った例など実践力が評価される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問で利用者様の生活歴を把握し、馴染みの暮らし方などの情報を頂き、安心できる生活支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の暮らしを詳細に記録し、生活リズムを把握して、スタッフ間でも情報共有しながら現状の生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間での状況把握を行いながら定期的にホーム会議を実施し、入居者様のケア改善に取り組み、家族面会時にも現状とケア改善への説明を行っている。	本人・家族の意向を最優先としてプランを立案し、評価担当者を決めて個々のプランの見直し、提案をおこなっている。プランは毎月の身体記録表と一体となっており、入居者の状況とリンクしながら支援できるようにしている。食への関わりや新聞記事からの昔の振り返り、衣類の選択など入居者自身の知識や能力が発揮できる場の提供などを盛り込み、ホームでの生活に張りや自信持ってもらう内容としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・入浴時・夜間帯などの様子をケース記録に詳細に残し、情報共有できるようにして、日々のケアに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍での面会の申し出にも対応し、その時々を大事にする支援を行っている。また、入居者様の意向を組みながら施設内行事など法人の協力を得ながら対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、地域との交流が図れない状況であるため、地域スタッフからの情報や広報誌等にて地域活動の取り組みを朝の挨拶時に発信している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携も確立しており、月2回の嘱託医回診もある。急変時もその都度対応できる体制がある。専門医受診が必要な場合、ご家族の都合がつかない時は宛にて対応できる体制を行っている。	本人・家族の了承により協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療が行われている。専門医の受診は基本的に家族の対応としているが、困難な場合はホームでも柔軟に応じている。受診結果は家族と共有しながら、健康面について気になる事や質問にはその都度応じながら、適切な医療支援に繋げている。また、母体の看護師とは日頃から連携が図られており、特に体調変化時には速やかな対応が来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である特別養護老人ホームの看護師による医療連携が整っており、日常の変化や異常時に素早い対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合、認知症進行するケースがあり、ご本人やご家族の気持ちを踏まえ、職員が病院関係者と情報共有を密に行い、早期退院へ繋がるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り文章にご記入頂き、ご本人の状況に応じてご家族と話し合いを持ちながら、ご本人・ご家族が望まれる最期を迎えられるように取り組んでいる。ご家族からも心身のケアも含めた対応をして頂いたと感謝の言葉を頂いた。	入居時に指針をもとに看取りに関する説明を行っており、継続した医療支援がなければホームで最終を支援している。馴染みとなったホーム職員や家庭的な環境での最期を望まれる家族や、母体の特養施設への申し込みをされている方もおられる。管理者をはじめ職員は日頃から本人の思いや家族の意向などコミュニケーションを図る中で把握に努めており、昨年8月に要望に応えながら最終の支援が行われている。支援後は本人を偲びながら振り返りの機会を持っている。	今後も普段の関わりを大切にしながらホームに出来得る支援に努めていただきたい。また、職員の意見を聞きながらホーム独自の重度化・終末期支援に関する研修会の開催にも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ連絡・報告の徹底ができており、医療連携体制がある。また、救急蘇生法の講習等受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・避難訓練等も消防署立ち会いのもとで年2回行っている。備蓄品についても、定期的にチェックを行い災害時に備えている。家族へも、訓練報告の際に備蓄品に関しても報告行っている。	今年度は5月に昼を想定した避難訓練を実施し、11月に夜間想定訓練を予定している。自然災害については、台風接近時は予報などで把握できることから早めに準備や対応を検討している。備蓄はリストをもとに確保しており、家族への報告も行われている。	訓練には消防署の参加、協力が得られていることは心強く、引き続き母体法人を含め地域との連携強化に取り組まれることが期待される。今後も日頃の安全管理の徹底や、コロナ感染症の状況を見ながら運営推進会議メンバーや家族の参加協力を得た訓練の開催に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様がスムーズに受け入れることができる、その方に合った声かけをするように心がけ、人生の先輩であることを念頭に置き、人格を尊重した対応を行っている。	法人の拘束をしないケアやプライバシーに配慮した取組を全職員で共有し、実践に繋がっている。呼称は苗字や下の名前など反応や要望などを聞きながら検討している。身だしなみやおしゃれの支援も本人の希望を尊重し、朝からの更衣もどれがよいか選択してもらい決定している。戸外に出る機会が減少しているが、ホーム内でもゆっくり過ごせる居場所を確保し、個々のペースで過ごされていることが確認された。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすくなるよう、職員は表情や言葉遣いに配慮しながらコミュニケーションを図り、一人一人の思いや希望などを発して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の体調をみながら、ささやかな言葉も受け止めることを意識し、その時その時の関わりで表情・反応などをみてご本人のペースに合わせた暮らしができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・気候に合わせた衣類の着用ができています。外出時や行事の際は、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑の菜園で収穫した野菜を用い、季節感を味わいながら他者と協力し好みの一品を作り上げて頂く取り組みが定着している。台拭き・配膳・下膳などの作業も入所者と職員で協力しながら行っている。	入居者の要望などを聞きながらその日に献立を立て、職員による調理が継続されている。また、味付けや盛り付けなど普段から食に関わる機会も多いが、野菜作りや梅干し、ラッキョウ、干し柿づくりなど昔取った杵柄を発揮できる機会が多く設けられている。食形態は常食以外にもキザミやミキサー食など、嚥下力に応じて準備されており、見守りなど必要な介助が行われている。	普段から入居者の食への関わりが支援されており、自信や食の楽しみにつながっている。今後も普段の食事内容を家族へ伝えることや個々に応じた出番が用意されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、食事量・水分量を確保し、お一人お一人のペースに合わせた支援をしている。ご家族にも協力して頂き、嗜好品の提供等、ご本人の習慣にも配慮し、満足に繋がるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っている。自分で出来る方、介助を要する方、個々に関わりを持ち、自分で出来る方も不十分な時はコミュニケーションを取り、洗浄の支援を行うなどして口腔の清潔を保っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ誘導表を活用し、個々の排せつパターンを把握し、排せつサインを見逃さず個々の状態に配慮しながら支援している。	基本的に布パンツを支援しているが、年齢や身体的な面からリハビリパンツで過ごされる方もおられる。職員は一人ひとりの残存機能を大切に必要なサポートに努めており、自立でトイレに行かれたり、さりげない声掛けなど日常の光景が見られた。便秘の予防として、乳製品の摂取や普段から体操など楽しみながら体を動かす時間を設けている。	夜間など個々に応じてポータブルトイレを使用される方もおられ、日中はバケツを裏庭に干すなど、プライバシーへの配慮が見られた。変わらぬ排泄支援への取組に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレッチ体操、ラジオ体操を普段から取り入れている。食事面でも、海藻やきのこ類・乳酸飲料を取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～土の夜間入浴を行っている。日中での入浴も対応している。個々のペースに合わせ、好みの温度を把握し入浴を楽しんで頂いている。	開設時から夜間入浴を月曜から土曜日に支援している他、要望があれば日中も対応している。入浴支援には以前勤務していた職員が非常勤として関わっており、馴染みの関係で入浴を楽しまれている。浴室は掃除や整頓を心掛け、冬場は特に脱衣所や浴室を温めてから誘導している。拒否がある場合にも、職員は無理なく入ってもらえるよう、声掛け等を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温に合わせ居室温度を調節し、夜間入浴での安眠に繋げている。リビングには和室を併設し、障子を閉めることで独立した空間とし、休息の場として利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の確認、変更時は記録に残し口頭でも確認を行っている。服用の際は氏名の確認を重ねて行い、誤薬防止に努めている。症状変化等は記録に残し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備時、個々に役割を担って頂いている。新聞購読・テレビ視聴・読書と、習慣とされていることを行っており、楽しく過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症のまん延により、例年のような外出は難しいものの、苑庭の散歩・近隣の公園へと、ご利用者の声を聞きながら外出の支援ができている。	コロナ禍にあるが状況を見ながら、近隣の散歩や本体特養の車両を借りて、花見(菖蒲や紫陽花他)などに出かけている。ホームの菜園には、地域の方の協力を得ながら季節の野菜が育っている。麦わら帽子を被り、首にはタオル、鍬を手に畑を耕される入居者の姿など作業の様子は広報誌で紹介されており、「野菜は土が肝心！」のコメントが添えられている。また、「家にキンカンがなっとる！」の一言から、ふるさと訪問を兼ね、個別支援で自宅のキンカンちぎりが実現している。収穫したキンカンは甘煮にしおやつ時にふるまわれるなど、一連の活動が入居者やホーム全体の笑顔になっている。	コロナが落ち着いたら帰省や外泊、墓参など家族の協力を得て取り組みたいとしており、実現が待たれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入されたいものがあられる場合は、スタッフやご家族と共に買い物へ出かけることができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑だよりの郵送の際に同封させて頂き支援している。また、暑中見舞い等の季節毎にハガキをご家族や友人へ書いて頂いている。電話の際はスタッフが仲介等行いスムーズに会話が出来られるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節毎に写真等を了解を得て掲示を行っている。また、季節に応じ、旬の花等を生けている。日差しの強い時は緑カーテンを設け、過ごしやすい空間作りに努めている。	馴染みの海や山を眺めながらのホーム生活は、入居者にとって何よりの居心地の良さとなっている。廊下には月ごとの写真や製作品が掲示されており、入居者も楽しみに廊下を歩かされている。感染症への対応から掃除や換気を徹底しながら、エアコンは状況を見ながら設定している。床暖房も備わっており、冬場はやわらかい暖を取る事が出来ている。明るいリビングにはソファやテーブルの他、団上がりりの畳の間が設けられており、食後の休憩や洗濯物たたみなど、開設時から変わらぬ光景となっている。	コロナが落ち着いたら、家族にもゆっくり掲示物を見てもらう機会を持たれることを期待したい。床暖房などホームの設備状況について家族に周知されることで更に安心に繋がると思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内の共有空間には、ソファ席・食席・和室を設け、個々の過ごしやすい居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具の持ち込みや、家族の写真、共に作成した作品を飾って頂けるよう支援・工夫を行っている。	入居前の居室見学はコロナ禍にあっても、実際家族に見てもらうことで雰囲気はわかり安心に繋がることから、感染対策を施し実施している。採光や居室からの眺めも異なるが、どの部屋もゆっくり過ごせるような環境が作られている。馴染みの品の持ち込みの他、季節の衣類は持参品記録で管理されている。エアコンが苦手な方もおられ、使用時間などを個々に応じ検討している。冬場も天気の良い日の布団干し、湯たんぽなども使用することで安眠につながっている。居室の変更は基本的にないが、個々の身体状況などに応じて行われる場合もある。	以前のように家族が気軽に訪問して居室の様子を見る機会は限られており、引き続き引き整頓の状況など、家族の安心に繋がる報告が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、お手洗いや浴槽の表札等で目印を設け、場所の把握やスムーズな移動の支援を行っている。		